

シヤンテイ

shanti

2010
秋
10月号

特集
25年目の
クラフト・エイド

手を、とりあうこと。
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。



社団法人 シヤンテイ国際ボランティア会

巻頭言

道 みち

「絵本ってなに？」から
100タイトル

国内事業課長 鎌倉幸子 かまくらさちこ

カンボジア事務所では1993年から絵本の出版をしています。今年
は記念すべき100タイトル目の
絵本が出されるのかと思うと感無
量です。

私は8年間カンボジアで図書館事業課の調整員をしていました。絵本出版も事業課の仕事の一つ。思い起こせば出版は「いばらの道」でした。「子どものために本を作っておあげたいんだけど、絵本って何？」カンボジアの若手の作家の一言にびつくり。理由を聞くと「小さい頃は内戦状態だったので、一度も絵本を見たことがないんですよ」と悲しい目をして答えてくれました。

鬼をやっつける民話を出版することが決定。画家から届いたのは、鬼の首が飛び、飛びちった血でペー
ジ全体が真っ赤な絵でした。どうしてこんな残酷な絵にしたのか聞く
と、「子どもの反応がいいものがないか焼かれましたね」とさみしう
される始末。

「内戦時代、本は巻煙草の紙になるか焼かれましたね」とさみしう
される始末。



4. これまでカンボジア事務所で開催した絵本
5. 原画を描くイラストレーター
6. 100タイトル目の絵本『乳海攪拌』はヒンドゥー教の天地創世神話
アンコールワットのレリーフに刻まれている
7. 図書館事業課スタッフが本文と絵をチェック
8. 原画に目を通す出版委員会メンバー

に、背中を丸めながら答える老年の作家。内戦中、作家であることが兵隊に見つかり、手の指をすべて折られた彼は鉛筆を持つこともできません。ゼロというよりマイナスからのスタート。ぶつかりあい、話しあい、時には笑い、泣きながら本を作った毎日。支えたのは「子どもたちの手にあるものが絵本であってほしい」「子どもらしい笑顔を取り戻してもらいたい」というカンボジアの人々の願いでした。これから絵本が詰まった箱が学校に到着した瞬間、子どもたちから湧き上がる歓声が、カンボジアの青空に響きわたるでしょう。

(カンボジア事務所 鈴木晶子)



1. 印刷所にて(右がチャイ・ポリースタッフ)
2. 事務所のデスクにて事務作業をしている
3. 出版した絵本や紙芝居の仕上がりをチェック

「私が小学生の頃に読んだ2冊の絵本のことを今でも思い出します。学校に図書館も本もなく、その絵本は友人のものでした。白黒で絵は少ししかありませんでしたが、それでも絵本を読めることが嬉しく、友人たちと一緒に読んだのを覚えています。その後、戦争が始まり、生きることで精一杯になりました。しかし、あの時読んだ絵本の記憶は薄れることなく今も心に鮮明に焼きついています。私は子どもたちの心に残る絵本を作りたいのです。」
こう話すのは、1995年からSVAに勤め、絵本出版を支えてきたチャイ・ポリースタッフです。彼の心に残っている作品はその後、タイトル18『5匹の友達』としてSVAから出版され、今も子どもたちに人気の高い民話絵本です。
1993年、カンボジア事務所が最初に出版された絵本『シヴァ神と鷹』は白黒印刷でした。それから、

プロジェクトの風景

a Scene of Our Project

カンボジア 絵本出版を支え続けて

「私が小学生の頃に読んだ2冊の絵本のことを今でも思い出します。学校に図書館も本もなく、その絵本は友人のものでした。白黒で絵は少ししかありませんでしたが、それでも絵本を読めることが嬉しく、友人たちと一緒に読んだのを覚えています。その後、戦争が始まり、生きることで精一杯になりました。しかし、あの時読んだ絵本の記憶は薄れることなく今も心に鮮明に焼きついています。私は子どもたちの心に残る絵本を作りたいのです。」

[SVAの使命] 私たちは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。特にアジアにおける教育・文化活動を通じて、「共に生き、共に学ぶ」ことができるシャンティ(平和)な社会の実現をはかります。

Cover Photo
シビル村の女性は子どものときから針を持ちます
いつかあなたの手が届く日を思いながら (ラオス)
写真: 安井清子



「カマ・クラフト」には、2010年のスタディツアーでも訪問

1986



ラオス難民キャンプ内でクラフト製作指導をしていた団体「カマ・クラフト」からモン族の製品を輸入、クラフト販売をはじめ。売上は880万円に。

1985



●クラフト・エイドのはじまり
ラオス難民キャンプ（バンビナイ難民キャンプ）で作られていたモン族の刺繍タペストリーなどを購入し、日本で難民支援バザーを開催。570万円の売上げ。

（右の写真）夜の闇に紛れてタイに逃れようとメコン川を渡るモン族のラオス難民の姿が、刺繍タペストリーに残されている。

1980

クラフト・エイド
25年のあゆみ

JSRC＝曹洞宗東南アジア難民救済会議が、カンボジア難民キャンプで図書館活動を開始。翌年、曹洞宗ボランティア会（SVA）誕生。

1987

タイ国内の複数の生産団体から製品輸入開始。製品の種類・数が飛躍的に増える。現在もお馴染みのラフ族、ミエン族、リス族、アカ族などのバッグや小物がラインナップに加わった。クラフトの売上は約1,500万円に。

●事業名を「クラフト・エイド」に
小冊子「CRAFT AID」を発行。「フェアトレード」という、当時まだ一般にはなじみのなかった言葉を使い、事業や生産者について解説している。

1988



この頃、人気が高かったモン族のアップリケエプロン

1989

●ラオスでの活動がはじまる

バンビナイ難民キャンプ閉鎖に伴い、SVAはラオス国内で活動を継続。翌年から、ラオス国内の団体の製品を取り扱う。「作り手を訪ねるツアー」を実施。委託販売のため在庫の管理が難しく、「品切れ」や「委託の売れ残り返品」に頭を悩ませる。



●スラムに職業訓練所を

SVAタイ事務所が、スラムの住民たちのための職業訓練所を設立。縫製部門で作った衣類やバッグを扱うようになる。「モン」の刺繍絵本展とクラフト・エイド展示即売会」を日本各地で開催。

シルクスクリーン部門で作ったカレンダー

1998

CRAFT-AID 25TH ANNIVERSARY

25年目の





カタログに見入るシビライ村の生産者たち

創作する喜び、 生きる温かさを感じて

フェアトレード・ショップ 風々 (ふ〜ず)
土井ゆきこさん



わたしはフェアトレードの店を営んでいるので、生産者を訪ねる旅はいつも楽しみです。今回の旅ではモン族のシビライ村、タンピアウ村、どの村にも素晴らしい技術・色彩感覚があり、私たちの心をいっそう魅了しました。自給自足では足りない生活費を得るための手仕事ですが、創作する喜び、表現の楽しさがそこにありました。

フェアトレードの特徴の一つは「小さい規模の生産」です。たくさん同じものはできませんが、その地域に見合った規模で作業をします。子どもの教育費、生活費のために、未来への願いをこめて一針一針丁寧に作られています。

それらを、安く買いたたく業者に売るしか手段がないとしたら悲しいです。生活が成り立つように願いを込めて作られたものを、私たちが同じような願いで購入することによって、生産者たちの背景にある難民問題、戦争などの歴史を知る。それは先進国に住む私たちが、これからどう行動するべきか、どんな社会を望むのかを考えるきっかけになります。

子どもを育て農業をし、より良い生活をつつましくも望む女性たち。その手によって作られた製品からは、私たちの見失った生きる温かさを感じられるのではないのでしょうか？

また、今回の訪問での大きな収穫は、子どもたちから元気なエネルギーをもらって、子どもたちに未来へのエネルギーを与えているSVAの図書館活動に触れたことです。目が見えない子たちへのSVAラオス職員さんが語った「おはなし」は素晴らしい、いまも心に焼きついています。子どもたちの未来は地球の未来です。そんな活動をしているSVAを日本人として誇りに思います。

生きている！ 地球上で何十億の人が生きている。出会える人、存在を知りえる人はわずかでも、みんなつながって生きていることを心につなぎとめてゆく旅でした。

◎名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会
<http://www.nagoya-fairtrade.net>
ホームページでもツアーのことを詳しく紹介しています。

ツアー参加者の声

事務所に届いた段ボールに、人の思いと生活がどれだけ詰まっているかを実感しました。

「この模様を作るとは言いたくない。作ることが苦痛になってしまうから」難民キャンプ時代からシビライ村の人たちを見守る安井さんの言葉に胸を打たれました。

他の製品を熱心に見たり、新たな柄への意見を求めたりする村民から製品開発への熱意も感じました。

生産者と消費者がパートナーとしてどうつながれるのか、考えていきたいと思っています。

■ボランティア 三島真知さん



SVAに関わっている従弟の紹介で参加。従弟の「まずは、見て知ることが大事」というアドバイスに心底納得した。モン族の村で、「学校へ行っていないから年齢を知らない」「お金があったら、塩と除草剤を買いたい」と話す女性たち。想像もつかない話だが、彼女たちは優しくあたたかい。TV画面の向こう側ではなく、両手を広げたその先に、つながりあい、共に生きている人々を感じられるようになった。感謝。

■渡辺伸子さん



Thailand

タイ



クラフト・エイドの原点

ラオス、タイの 生産者を 訪ねて

STUDY TOUR IN
LAOS & THAILAND

今年7月、12名の方々に参加いただきクラフト事業25周年記念のスタディツアーを実施しました。訪問先は、クラフト・エイドの原点といえるバンビナイ難民キャンプからラオスに帰還したモン族の村と団体、それに国境のメコン川を渡ってタイの町ノンカイです。



モン族の民族衣装を着せてもらって記念撮影。(タンピアウ村)

文：藤川和美

7月17日(土)

ツアー初日はラオス事務所でのレクチャーが中心。クラフト・エイドの他にSVAの教育支援事業について学習した後は、元SVAスタッフの安井清子さんに難民キャンプでの活動やモン族についてお話しをうかがいました。途中、視覚障がい者施設での移動図書館活動を視察。ミンチェンスタッフの「おはなし」を、目の見えない子どもたちが一心に集中して聞く姿にみな心打たれました。

シビライ村 7月18日(日)

バンビナイ難民キャンプから帰還したモン族の村。ピエンチャンから車で3時間ほど北上した道路沿いの急斜面に家々が点在しています。キャンプでSVA図書館のそばに住んでいた人たちが、キャンプ閉鎖後はラオスに帰還し自給自足の生活をしています。村の人口243人のうち、15歳以下が115人も。モン族は一夫多妻制で早婚多産なのです。村長のワーピアさんにも二人の奥さんがいて、仲良く並んで刺繍していました。

シビライ村の女性たちが刺繍クロスステッチ刺繍は独創的でとても美しいものです。小さな頃から見

カム・クラフト 7月19日(月)

難民キャンプでクラフト制作指導をしていたアメリカの団体。難民たちの帰還開始と同時にラオス国内に入り、クラフト生産販売を通して村人の収入向上/生活向上を支援、10カ村250人の生産者を組織しています。現在はラオス人自身の運営で、直営店も2店舗持ち、堅実な活動を続けています。

訪問したのは、やはり帰還難民のモン族の村・タンピアウ村。同じモン族の帰還難民の村でもシビライ村とは対照的に平地にある村です。娘さんたちが美しい民族衣装を着て歓迎してくれました。この村で作っているのは、ライフシオンと呼ばれる刺繍の製品。キャンプではタペストリーとして売られていました。これも自給自足の生活で、現金収入はクラフト制作の賃金のみです。団体では技術指導をし、市場の仲買人などよりも2割ほど高い価格で継続的に発注し安定した仕事を提供しています。

ハウス・オブ・ ハンディクラフト 7月20日(火)

最後に訪ねたのは、タイにある生産者団体ハウス・オブ・ハンディクラフト。メコン川にかかる「友好橋」を車で渡って入国しました。代表のワニダさんは波乱万丈の人生を送ってきた女性です。60年前にはラオスに暮らし、クラフト生産販売事業で大成功し財をなしましたが、ラオスの革命により、「若い独身女性が事業で成功するのは怪しい」という理由だけで逮捕投獄され財産は没収。3年後に釈放されタイに渡ってゼロからやり直し、現在は小規模に8つの村で約40人の生産者に仕事を提供しています。行

政をまきこんで事業を推進したいというワニダさんの計らいで、ノンカイ県の副知事を表敬訪問しました。その後は生産者との交流。クラフトを作っているところを見学し、ウォーリールドール作りに挑戦させてもらいました。そして、生産者と意見交換。入荷した製品はすべて検品し、時には不良品の修理までしていることなど説明しました。

ツアーのあとで

自分たちが作った製品の「買い手」に会って、直接話をした事が生産者たちにとって大きな刺激になったようです。品質管理についても今後はさらに丁寧に作る、と張り切っている手紙が届きました。クラフト・エイドがつけるもの、それは作り手と買い手の思いがこめられます。

わたしのまちのクラフト・エイド



「お店はないんですか?」「どこに行けば商品が見れますか?」というお問合せをよくいただきます。「クラフト・エイド」は、カタログやネットショップでの販売が主で、実際に商品を「覗いた」たけるのは、イベント販売などの時だけです。そんなわたしたちの強い味方になってくださっているのが、日本全国でフェアトレードを広めるため日々がんばっている店舗、「クラフト・エイド」の活動を紹介しながら販売をしてくださっている団体のみなさま。

今回は、長年「クラフト・エイド」を支えてくださっている3名の方に、「クラフト・エイド」と関わることになったきっかけやこれまでの活動の様子などをうかがいました。

お店カフェ



お試し販売をしてみませんか? 今年限りの記念企画です

通常は店舗とのお取引は卸となりますが、25周年を記念して、返品できる委託販売が可能です。あなたのお店も参加してみませんか? あなたのまちにも「クラフト・エイド」をよんでみませんか? フェアトレードや国際協力などに関心のあるお店へ、ぜひ「クラフト・エイド」をご紹介します。

学校グループ寺・教会



バザーやイベントで委託販売をしてみませんか?

学校の文化祭、地域のバザーやイベント、ご寺院でのクラフト商品の委託販売はいかがですか? 委託期間は2週間程度。売れ残った商品は返品可能です。売り上げの80%は「クラフト・エイド」へ、20%はみなさまの活動資金としてお使いいただけます。

お問い合わせ

担当◎藤川和美 / 落合あづさ
TEL・FAX 03-3350-1981
ネットショップ <http://craftaid.jp>
email craftaid@sva.or.jp



- 北海道** これからや/みんたる / Earth Cover / サンサン / 庄内町国際交流協会事務局
- 青森** 風のひろば/マーヤ婦人会 **秋田** Tooi (トオイ)
- 岩手** 岩手県花巻ユネスコ協会 **山形** 庄内町国際交流協会 **宮城** Cafe WILL / 尾張屋 / サンタピアアップみやぎボランティア会 **福島** なな色の空
- 茨城** Ritz'n (リッツン) / じゅん菜 / EATS ARTS / 「茨城アジア教育基金」を支える会 / アジア友情の会 **栃木** 菊屋 / タイ教育里親の会 **千葉** アーシアンショップちば / 柏ユネスコ協会 / カトリック市川教会 **埼玉** えぶろん茶屋 / トーク **東京** ぐらする一つ / ふろむ・あーす / BEANS' Act / ツナミクラフト / 千手観音 / 街なか / まろうど / POTTO SHOP / 中馬 / Do Good, Be Happy! / アトリエ銀沙 / るま・ばぐーす / メーコックファーム / 阿佐谷東教会 / 渋谷歯科技工士会 **神奈川** ちえのわハウス / 湘南文化教室 / 楓杏 / 夢の子ども / かまくら富士商会 / グリーンバザール / Mamuan / 木木 / 鎌倉花工房 / アガベセンター

東京都・渋谷区



フェアトレードのある暮らしを提案する

ワイズアップパッチワーク 長谷川輝美さん

「わあ、素敵!」店頭に並んだクラフトたちの丹念な刺繍や見事な織りの出来栄を、お客さまの歓声やため息が聞えると、私の出番。ニコリうなずきながら、これはタイやカンボジアの女性たちによって、ハンドメイドで作られていることをお伝えします。

フェアトレードを通して、手ごとのぬくもりとその背景を伝え、共感を広げる、こんな仕事に日々喜びを感じています。

事務所にはうかがうと、いつもボランティアの方たちが黙々と製品のチェックをされている姿を目にします。作り手と消費者の間をつなげるたくさんの人の手。私もその中の一人として、丁寧なものに接し、たくさんの出会いを作っていければと思います。

(問い合わせ 03-5469-1612)



環境共生とエコロジー クリーニングを目指す

株式会社 北洋舎クリーニング 高橋美加子さん

SVAをいまだに曹洞宗国際ボランティア会と呼ぶ古い会員です。入会と同時に「クラフト・エイド」に参加しました。入会のきっかけは、タイ山間民族の手仕事のすばらしさに魅力を感じたことでした。色、デザイン、丹念な針目の美しさ、どれをとっても、現代社会の真っ只中で仕事に追われている私にとって、砂漠でオアシスに出会ったような感動を覚えました。その作り手たちが厳しい環境の中で、最底辺の暮らしを余儀なくされていることに大きな矛盾を感じ、このことを自分の周りにいる人たちにもっと知らせたい。それが私の「クラフト・エイド」のスタートでした。

バンコク事務所の職業訓練の場を見学したり、ラオス国境近くのティン族の村を訪ねたり、ずっと小さな活動を続けてきました。昨年末、お店をリニューアル。この春、展示スペースで、「クラフト・エイド」を紹介しました。

美しい手工芸品が生産者の厳しい境遇を切り開き、それを買うことが彼らの未来の展望につながることを、お客さまに伝えながら、一つひとつ手渡していく喜びを味わいました。クラフト・エイドはここにも世界とつながることが出来る活動、これからも続けていきたいです。

(問い合わせ 0244233578)

福島県・南相馬市

- 山梨** びーはっぴい / 花みずき **群馬** ボランティアこぶの会 **新潟** YOBI (ヨビ) / 小針美顔教室 **富山** グレーパリー **長野** まなかまな / グリナーズブレッド / 沙羅の会 / 桃源院おんなじ空ネット / ホコホコネット **石川** アジュール / いぎ工房

- 岡山** コットン古都夢 **広島** 菩提樹の会 / 法瀧寺 **鳥取** 鳥取県国際交流財団 **島根** 水交舎アステリスク / 正福寺 **山口** ギャラリー三匹の猫 / YUCCA (ヤッカ)

- 愛媛** MOTHER EARTH **徳島** がらくたや **福岡** 気まぐれや / 福岡東部子ども劇場 / 食堂たかみ **鹿児島** 花舞

福岡県・福岡市



九州の仲間たちと

里見照子さん

クラフトに携わり17年、お土産にいたっていたのが出会った。好奇心に導かれ辿り着いたSVA。アジアの民族や現実を知り、すぐに販売を始めた。美しい品々に触れた方々の好奇心、目の輝き、弾む心、選ぶ折の嬉しそうな迷いなどがますますに伝わってくる。一期会のはずが馴染みのお顔が増えて、ねぎらわれたり励まされたり会話が弾む。

手仕事の中に女性たちの語らい、穏やかで豊かな時の流れが感じられる。スタッフ、ボランティア、多くの方々の努力でとても完成度の高い仕上がりになっている。充実したカタログも活用して、丸ごと伝えて、これからも楽しく続けたい。

私たち一人ひとりが 貢献できるフェアトレード

国内事業課クラフト・エイド担当 藤川和美



フェアトレードは貧困の削減と持続可能な社会開発に有効な手段である。世界的には主にコーヒーなどの食品部門で大きく成長が続いているが、クラフト・エイドでは現在もクラフト類を中心に扱っている。パートナーである生産者団体の規模は小さく、山岳少数民族が多い点が特徴だ。フルタイムでクラフト生産に従事し生計をたてている生産者はカンボジアのみで、その他の国の生産者たちは現在でも農業による自給自足、またはそれに近い生活をおくっている。一家の現金収入はクラフト生産のお金だけ。貴重なそのお金で子どもたちを学校にやり、自給には足りなかったお米や食べ物を買う。病気の時は医者に診てもらえることもできる。クラフト・エイドは山岳民族や地方農民の「弱い立場の人々」の貧困削減と生活の向上に確実に貢献しているのだ。

それなら生産者がクラフト生産だけで生活できるように事業を拡大すれば、との意見がある。しかし、自給自足・農業中心の彼らの生活を安易に壊すことはしたくない。SVAは教育支援NGOである。フェアトレード専門団体のように人材、資金、時間を投入できないことを考えると、生産者の伝統的な生活様式を根本から変えてしまうことはリスクが大きすぎる。

25年で一番大きく変わったのは、製品の品質と、購入者の意識かもしれない。最初は「難民支援バザー」という名に示されるように、品質が悪くてもチャリティとして皆さん買ってくれていた。しかしフェアトレードはあくまでもビジネスなのである。継続的な貿易として成立させるには、「いらぬものはいらぬ」とはっきり言う消費者の声と、品質への厳しい目が必要だった。昔は入荷のたびに山ほどあった不良品は、長年にわたる根気強い指導の結果、現在はほとんどない。クラフト・エイドの品質は最高レベルであると胸を張って言える。

この25年で物の値段は驚くほど下がった。無駄なコスト削減結果としての安い物は歓迎したいが、もし低価格の背景に、大量生産・薄利多売→大量消費→大量廃棄、というしくみがあり、買い物をするたびに地球環境の破壊や生産者の貧困に無意識に自分が加担してしまっているとしたらどうだろうか? その一方で、一つひとつ丁寧に手仕事で作られた物を5年も10年も長く大切に使うという選択もある。貧困や環境という地球規模の問題を解決するために、私たち一人ひとりができること、その一つがフェアトレードである。

カンボジア
Cambodia
自然環境と
生物多様性保護

自然環境と生物多様性の保護はカンボジアの仏教寺院の伝統的役割です。小さな林の中に現れる赤い屋根の建物はワットと呼ばれるカンボジア寺院。周辺の地域に住んでいる村人に水を供給するためそ



上：コンポントム州のサムボー遺跡での植林（右は山本英里所長）



左：寺院の苗木養成所でさまざまな苗木を育てている
右：4年前に植林した木がこれだけ大きくなった
下：タケオ州の寺院へ視察に行ったイー・トン副所長（手前左）

れぞれの寺院には、池と井戸があります。現在危機的な状況であるカンボジアの環境問題を解決するためにカンボジア政府、住民と共に、仏教コミュニティが活躍しています。SVVAは仏教僧侶とともに、宗教省及びその他の団体と協力して、スヴァイリエン州スヴァイ・チュロム郡の寺院での自然環境と生物多様性の保護活動に積極的に取り組んでいます。また、コンポントム州に位置するサムボー・ブレイコック遺跡で自然環境と生物多様性の保護の活動も成果を上げています。

保護が人間の生活にとって重要であることの理解と同時に、仏教寺院と僧侶の伝統的な役割を高めるための研修会を開催しています。また、仏教コミュニティに苗木育成所の建設を支援し、コミュニティのメンバーに種子発芽や有機肥料の作り方、使い方についての技術的な研修会を開きました。毎年それぞれの苗木育成所で数千本の絶滅の危機に直面している木を含むたくさんの種類の苗木が栽培されました。スヴァイリエン州とコンポントム州では、30キロ以上の用水路沿いでの植林活動を、スヴァイ・チュロム郡のすべての寺院で、小学校と中学校が協力して植林活動が行われました。コンポントム州では、史跡のサムボー・ブレイコック遺跡の10ヘクタール近くの土地に植林しました。毎年数百人の僧侶、政府の関係者、村人、先生、子どもがこの活動に参加しています。

このような活動は仏教寺院の伝統ですが、成果を出すために、まず数十年の内戦で破壊された寺院の貴重な文化、特に自然環境保護文化の保存を手助けする必要があります。イー・トン、副所長、チア・パル、翻訳

ラオス
Laos
夏休みの図書館は
朝からにぎやか



お姉ちゃんが本に夢中で手持ちぶさたなの

ラオス事務所の1階には、一般に開放している図書室があります。蔵書は約3000冊、その半分は幼児と小学生向け、残りの半分は中学・高校・一般向けです。普段は近隣の小・中学校から制服姿の子どもたちが昼休みを使って利用しに來ますが、六月から八月末の夏休みの間は、図書室の様子が少し変わります。

まず、子どもたちが図書室に朝から夕方までいるようになりまます。なかには私たちが通動してくるよりも早く来て、まだカーテンが閉められたままの薄暗い図書室で、ちっちゃな指で絵本の文字をなぞりながら本を読んでいる子どももいます。

また、同級生と来ていた子どもたちが、兄弟姉妹と一緒に来るようになりまます。ヴィエンチャン首都でも両親揃って共働きの家庭が多いため、小学生でも、弟妹の面倒をみなくてはならないからです。

小学生の子にとっては、日本から届いた本をはじめ、自分で読める面白い本が山ほどあって楽しい読書の時間になります。また、文字を読めない幼い子どもたちには読んでくれる人がいないと、楽しむことなにかできません。そうなるとうでしよう？ わんぱく坊主の弟と、おてんば娘の妹が、お兄ちゃん・お姉ちゃんが本を読んでいる時に、ちゃんと静かにしているのでしょうか？

夏休みの図書室は毎日にぎやかです。（鈴木淳子）

ミャンマー(ビルマ) 難民
Myanmar (Burma) Refugee Camps
メラ難民キャンプ
第5 図書館開館式



住民と関係者が開館を祝った

5月の火災で被害を受けたメラ難民キャンプの第5コミュニティ図書館。

6月中旬から再建をはじめ、8月10日（火）に開館式を迎えました。式典には大勢の関係者とキャンプの住民が集まりました。図書館再建に向けて、多くの皆さまから募金にご協力いただきました。心より感謝いたします。

式典での挨拶をご紹介します。難民キャンプ委員会「SVVA」に感謝を申し上げます。日本に募金してくださった皆さま、図書館を支えてくださった全ての皆様にお礼を申し上げます。

私たちは、キャンプのメンバーが図書館を再び利用することができて、とても幸せです。特に子どもたちが、自

分たち地域の図書館という意識をもって、図書館を愛して、本を大切に扱ってくださることを望んでいます。多くの子どもたちが、絵本のお話を聞き、人形劇を見ている姿はとても幸せそうでした。タイ政府「子どもたちはSVVAや日本からの支援を頂いて、新しい図書館を利用することができて幸運だと思っています。自由時間を有効に活用できる図書館は貴重な存在です。子どもたちは様々な活動に参加することが出来ます。本を読めば読むほど、さらに新しい知識を習得できるでしょう。そして外国の伝統や文化を知ることでも出来ます。」

（ジラポーン・ライウィルン）

タイ
Thailand
図書館で
得られること



ルンブルックさん親子

クロントイ事務所にある図書館からはにぎやかな声が聞こえてきます。学校が終わった午後3時頃や、週末には大勢の子どもたちや大人が集まっています。今回はある親子を紹介いたします。母親は、SVVAの職業訓練校の第一期生として技術を学んでおり、現在は輸入会社で縫製の仕事をしています。

チャナクル・ルンブルックさん 小学校4年生 9歳 ほかはお母さんと図書館に来て、友達と遊ぶのが好きです。ここに来ると大勢の友達に会えます。色々なリクレーションに怖がらず積極的に参加しています。図書館にいる時は楽しいので、ゲームをしなくてもいいけど、図書館がお休みの時は別です。

アモンラット・ルンブルックさん 38歳 私は図書館の会員です。息子と一緒に来るのが好きです。長年通っているの、ほとんどの本を読んでいます。家周りの子どもたちはコンピュータゲームに夢中になっていますが、息子にはそうやって欲しいとは思っていません。私たちが生活するスラムには薬物の問題が広がっています。息子は本を読んで、薬物が与え

る悪い影響について知ることが出来ます。これからも図書館を利用していききたいです。地域での薬物の問題は深刻です。図書館活動を通じて、子どもたちが知識を得て、間違った道を歩まないようになりたうら良いと思います。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。（バカボン・クルチョンアユタヤ）

アフガニスタン
Afghanistan
洪水被災者へ
食糧を支援



増水した水で村の橋が倒壊してしまった

7月下旬、アフガニスタン（以下アフガン）東部では、1週間に及ぶ強いモンスーンの影響により、1万5000戸以上の家屋が破壊され、約400人が洪水で亡くなりました。

SVVAが活動しているナンガハール州に隣接するクナー州州は大きな被害を受け、洪水により約2000戸が全壊、約100人が命を落とし、子どもと女性を含む20人が行方不明となりました。

SVVAは、同州が被害を受けた3日後の7月31日、3名の職員を派遣、サーカノ郡バナイ村にある難民キャンプで食糧支援を実施しました。この難民キャンプでは、以前パキスタンに逃れていたアフガン難民が、パキスタン軍と反政府武装勢力の間の紛争のため、3年前にアフガン側に戻り、河沿いに自分たちで家を

建てて生活しています。キャンプのリーダーは被災者の家族のために、早急の食糧配布をSVVAに要請しました。この地域の1200世帯が被害を受けましたが、SVVAの緊急救援予算（3000ドル）では135世帯への食糧配布などの支援しかできなかったため、地域のリーダーと話し合いの上、被害が大きい世帯、子どもがいる世帯を対象に、米を40キロ、食用油を3キロを配布しました。

難民キャンプのリーダーは、「洪水の被害者リストをNGO、政府、国際治安支援部隊に送りましたが、どこからも支援をいただけませんでした。SVVAがここに駆けつけて、食糧を支援してくれた最初のNGOです。心から御礼申し上げます」と話しました。

（三宅隆史）

あなたの身近で、日々の生活の中で工夫して取りくめ、
参加できる国内での活動が広がっています。
その紹介と各地でのイベント、お知らせなど。

チャリティバザーでクラフト・エイド 三菱商事株式会社

三菱商事株式会社では毎年8月・12月に多くのNGOを招いてサマー／クリスマス・チャリティバザーを開催しているのですが、これが実にユニーク。重役のみなさんが、NGO販売ブースの「売り子」としてボランティアして下さるのです。昼休みの社内バザーは、ドンドン売れて、活気にあふれています。昨年のクリスマスバザーでは、社長がSVAのブースで売り子に。気さくに声をかけてクラフトを売って下さいました。トップ自ら、楽しみながらボランティアを実践する社風に脱帽です。(藤川和美)



8月には部長がアロハ着用で社員と売り子ボランティア

ライブ×オークション=絵本&奨学金 オークション音楽会を開催

5月4日の夕暮れ時、東京は新大久保のライブバー「水族館」。千葉県市川市在住のアマチュア・ミュージシャン柘植さん夫妻と徳田さんが中心になってチャリティ・ライブパーティ「オークション音楽会」を開催しました。

賛同した友人のミュージシャンたち40人以上が参加。ライブを楽しみつつ、それぞれが持ち寄った自慢の逸品をユーモアたっぷりに会場内でオークション。

その収益金に加えてお店からもご厚意で飲食代金の一部を寄付いただき、合計6万5600円がSVAの「絵本を届ける運動」とアジア子ども奨学金に寄付されました。

後日、柘植さん宅にてラオスとミャンマー(ビルマ)難民キャンプに届ける絵本8冊の訳文を貼りつけました。

「子どもたちに楽しんでもらえるとうれしいね。こちらも楽しませてもらっているのが非常にありがたいです」と柘植さん。

筆者もパーティ参加者。趣味のバンド演奏を楽しみ、パーでの一杯を楽しみ、



上:ミュージシャンが持ち寄った品物を会場でオークション
下:柘植さんのお宅でメンバーが訳文を貼りつけ、絵本を完成

その結果がアジアの子どもたちの教育に役立つ、という全方位的に Good Job な「オークション音楽会」でありました。

SVAさん、後はよろしくお願ひいたしましたぜ!!! (詳しい内容はMiviの「第2回オークション音楽会」コミュニティに掲載されています) (SVA会員 岩船雅美さん)

8月のギャラリー・シャンティ 「祖国なき人びと」上映会

1981年にカンボジア難民キャンプで撮影されたドキュメンタリー「祖国なき人びと」。JSRC(SVAの前身)が活動の記録として制作したもので、ポルポト政権下で家族と離散した子どもなど、難民の置かれた状況を今に伝えてくれます。

SVA東京事務所では、毎月テーマを決めて、「ギャラリー・シャンティ」と名づけ、イベントをおこなっています。8月は平和を考えようと「祖国なき人びと」の上映会をおこない、鎌倉スタッフがカンボジアが受けた心の傷、絵本が人びとに何を与えるかなどお話ししました。



画面に当時の活動地が映し出されると身を乗り出す参加者たち

ラオス人スタッフが来日 大阪で研修、東京で報告会

「体験すること全てが学びとなり、自分の人生のなかでとても素晴らしい経験となりました」7月の3週間、研修のため初めて日本に滞在したラオス事務所スタッフのオイスン(学校教育支援事業課)とアレックさん(図書館事業課)。2人はラオスと変わらない暑さのなか、小学校や図書館など訪問、最後は東京事務所での報告会を実施。日本で学んだことをラオスでの活動で活かしていきます。

招へいくださった大阪マイペンライ様、ありがとうございます。

(海外事業課 木村万里子)



「教材づくりはラオスの教員研修でも参考にしたい」オイスン(左)とアレックさん(右)

6月のギャラリー・シャンティ 在日ミャンマー(ビルマ)難民のオーク

6月18、19日、「世界難民の日」にちなんで「世界の難民たちのことを考えてみませんか」と名づけたイベントを、東京事務所で開催。ミャンマー(ビルマ)難民キャンプの生活が感じられるように、写真のほかに、民族衣装やSVAが運営する図書館で読まれている絵本も展示しました。

トークの時間には、在日カレン難民から「難民申請中は就労できないし、何年かかかるので、経済的、精神的に厳しく、病む人もいる」など厳しい現状が話されました。また、カレン正月を祝うなど、民族の習慣を大切にしていることも伺いました。



ミャンマー(ビルマ)難民キャンプの子どもたちが描いた絵も展示

三方、笑顔の

チャリティ寄席

これさえそろえば、
チャリティ寄席の
できあがり!

どのような催しなのか、
一目でわかるような横
断幕を掲げます。

●横断幕

断家さんのうしろは、シンプルな
背景にします。屏風がない場合は、
布やついたてなどで代用できます。

●屏風



●めくり

出演する芸人さんの名前をかき
出します。めくり台がないときは柱
に留めても結構です。

●高座

舞台となる「高座」は、お客さまが座っ
たときの目線より高くなるようにします。



●ざぶとん

特別なものである必要は
ありません。お寺やご家庭
にあるもので結構です。

●CDラジカセなど

出囃子を流すため。CDやカセッ
トを再生できるもの。



●マイク

マイクの準備をお願いします。
落語家さんの場合はスタンドマ
イク、色物さんにはピンマイクを。

落語家さんに



2009年11月にカンボジアの海外公演に参加し、SVAにたいへんお世話になりました。日本国内でも何か協力できないかということで現在「国際協力チャリティ寄席」をSVAと共催しております。

東京以外の地方公演にも力を入れている我が協会ですが、会場や集客の確保が難しいのも事実です。是非、うちの若手、中堅落語家や色物さんをどんどん使っていただいで皆さまの所でも「国際協力チャリティ寄席」を開催ください。(落語芸術協会会長 桂歌丸師匠)

おきさんに



単なる人寄せではなく、「お寺なら
ではもの」「お寺だからこそやる」
という意味づけが欲しいものです。

私の寺では3回「チャリティ寄席」
を開催させていただきました。毎回小
さい子どもからお年寄りまで、大勢
の方の笑い声が本堂にあふれます。その
笑顔が、アジアの子どもたちの笑顔へ
とつながるのですから、誠に嬉しい限
りです。

住職の務めとは、一言で言えば「ご
本尊様に喜んでいただくこと」。多く
の方々の笑顔にきっとご本尊様も喜ん
でくださっている、と私は確信してい
ます。(建福寺 安野正樹住職)

マジカのおもに



「本年もアジアの子どもたちへ
ご支援を」とのSVAからのお願い
に毎年あたたく募金などでお願
いに応じてきた全国のご寺院さま。
しかしこの様な支援願いを一方的
に毎年お願いするのはSVAとし
ても心苦しい思いでおりました。
支援いただくお寺などにも喜んで
もらえる方法はないものか?その
答えが「国際協力チャリティ寄席」
でした。

お寺に集う日本の方々にも笑
顔になってもらい、その笑顔の
おすそわけとして募金をお願い
する(2009年は52会場より合計
345万円の募金が寄せられました)。
そして、その募金が海外の子ども
たちの笑顔を増やし、世界中に笑
顔を広げていく。それが、「国際協
力チャリティ寄席」です。
落語芸術協会のご協力で通常よ
りも安い出演料で落語家さんなど
をご紹介いただいており、ご寺院
さまには比較的少ない負担で寄席
を開催することができ、新たな
海外支援方法として好評いただ
いています。

◎お問合せ

電話03-5360-1233
わかりやすい資料・紹介DVDを
お送りいたします。
自覚大道 青島寿宗



散歩道

最終回
6
巣鴨から
千駄ヶ谷へ20年
文市川齊



SVA東京事務所は、JR総武線・千駄ヶ谷駅から徒歩3分。近くには国立競技場A、神宮球場、東京体育館、秩父宮ラグビー場があり、様々なイベントが開催され、時には混雑に巻き込まれます。

近くの新宿御苑は四季の移り変わりを堪能でき、秋には神宮外苑の銀杏並木がきれいです。新宿区の中で、もっとも災害時の避難場所には、困らないエリアかもしれません。天気の良い日には、東京体育館横のフットサル場前でB、練習を見ながら、弁当を食べるのも良い気晴らしになります。

一方、駅前には、銀行、スーパーもなく、店もほとんどないため、ちょっとした用事を済ませるには、不便な面もあります。

巣鴨から千駄ヶ谷に引越したのは、1997年9月でした。当時は、北朝鮮食糧支援活動の担当者で、いやがらせ電話、公安委員会のヒアリングなど、色々な困難な状況はありましたが、最後には、總持寺でのチャリティコンサートを成功裡に終えることができました。その時に支えてくれたのは、ボランティアの皆さんでした。

その後、国内活動のかたわら緊急救援に関わり、そして、アフ

ガニスタンへ。いつも前線で活動をさせていた日々が過ぎ、今では管理部門の仕事が中心となりました。公益法人制度改革に伴う公益社団への移行、新デパート導入、そして就業規則を含めた労務管理の見直しがこの課題です。

「生きるということは、人に借りをつくること。そして生きていくというのは、その借りを他の人に返していくこと(永六輔氏)」

巣鴨事務所時代(90~97年)は、結婚、2子の誕生、祖父母と母が相次いで亡くなり、「生」と「死」と向き合い、一方、多くの先輩に仕事を教えていただきました。

SVAにお世話になって20年、これからは、少しでも若いスタッフ、ボランティアの皆さんが生き生きできるような場を支えていきたいと思っています。

と思いつくばかり。今日も、来年度の計画・予算資料とのにらめっこが続きます。



市川齊 (いちかわ・ひとし)
静岡県出身。1990年入職。1995~97年阪神・淡路大震災の救援活動のため神戸事務所長、2003~5年アフガニスタン事務所長。それ以外は東京事務所勤務。08年4月より事務局次長(経理・総務課 課長兼務)。

ボランティアな人たちが Shanti

51
中島和彦
Nakajima Kazuhiko
なかしまかずひこ

長野県諏訪市に本社をおくセイコーエプソン労働組合からは、教員を対象とした図書館研修会のご支援をいただいています。カンボジアを訪ねたときのこと、子どもたちへの思いを、担当の中島さんにかがいました。

カンボジアとの出会いが、自分を成長させてくれた

セイコーエプソン労働組合で社会貢献局の局長を務めている中島さんの気さくな人柄とくつたかない笑顔は、人を引き付けてやまない魅力がある。

「社会貢献の担当となったけれど、どう関わっていけばいいか最初はわからなかった」という中島さんの転機は、2005年に参加したSVA主催の「絵本を届ける運動」カンボジアツアー。

「カンボジアでの体験は、パーンと胸に迫ってくるものがあり、涙がでそうになったんですよ!」

厳しい環境にいたながらも懸命に勉強をしている子どもたちの姿に胸をうたれた。児童に将来の



「絵本を届ける運動」ツアーでカンボジアの小学校を訪ねた

夢は?と尋ねたら、「先生になりたい」と恥ずかしそうに答えてくれた女の子がいた。絵本の読み聞かせでは、1冊の絵本を持った先生の周りを子どもたちが取り囲む。先生になる夢をいじめている女の子もその中にいた。中島さんは、その時、絵本を見つめる子どもたちの目の輝きに衝撃を受けた。教育支援の必要性を確信するとともに、真剣に取り組まなければならないという強い思いに駆り立てられた。

教育の質の向上には、継続的な人材育成が必要不可欠であると実感した中島さんは、帰国後、労働組合内を説得し、ソフト支援で

ある教員を対象とした図書館研修会への支援を2006年から継続的に行っている。

「カンボジアとの出会いが自分を成長させてくれた」。現地視察を通じて学んだことは、自分の物を差して測るのではなく、まず相手のことを知ろうとすること、そして相手のことを知れば、何をすればよいか気づくことがある。その気つきは、国内の障がいを持った方々と作業を共にするときにも活かされているという。

そうした心のつながりを大切に、地元NPOと連携をして中学校のトイレ掃除を始めた。初め

は、いやいや参加していた中学生も、「トイレの汚れは、心の曇り」と次第に掃除に熱がこもり、トイレをぴかぴかにした。自主的に掃除に取り組み生徒たちの目は輝いており、絵本を見上げるカンボジアの子どもたちの目と重なった。

中島さんのモットーは「ひとりの100歩より、100人の1歩」。これからは、労働組合の活動を増やし、カンボジアでの教育活動への支援を継続していきたいと満面の笑みで答えてくれた。

(海外事業課 塚本真衣子)

休みの日は、ちょっと一息...

フェアトレードが
たいせつな理由ってなんだろう

価格破壊と言われ、商品の値段がどんどん下がっていますね。298円のお弁当、68円のおにぎり、安いバイト代で働く人など、いろいろな犠牲のうえに成り立っているのではないかと、スーパーでそんな心配をしてみたい。

それは海外の場合、顕著です。タイの路上で買った100円で買えてしまうかもしれない刺繍のポーチ。でも、仲買人が安く買いたたいから、その値段で売れるのです。忙しい家事の合間にお母さんが仕上げた刺繍が二束三文で、嬉しくないと思いませんか? そんな世の中のしくみを変えるのが、フェアトレードです。世界で4270億円の市場規模ですが、日本ではまだ3億円でとまっています。

「適正な価格」にこだわったフェアトレード商品は、ちょっと高いかもしれませんが、でも、生産者の生活を守ります。みんなで市場を育てていけるといいですね。

フェアトレードのしくみや団体について詳しく知りたい方にオススメの2冊です。



SVAからのお知らせ

「公益法人移行」 進捗状況報告

SVAの公益法人移行申請状況についてお知らせをいたします。

当会では、5月10日に、内閣府

に移行申請する定款(案)・事業区分説明書類を揃えて、内閣府認定等委員会相談会に参りました。この時には、申請受付の担当官から詳細にわたり、定款内容、文言のアドバイスをいただきました。誤字、文言修正等軽微な変更を行い、

7月2日には臨時理事会を開催し、定款をはじめ必須で提出する申請資料の内容確認を行いました。そして、新々会計基準にあわせて予算書を作成し、必要書類一式を揃えて、8月9日に内閣府に電子申請をさせていただきました。

今の時期は、多くの各社団、財団が申請を行っている関係から、公益法人移行審査が4ヶ月ほど待たされる状況があったという情報もありましたが、今年の7月頃から、その点について申請手続きの

遅れが改善されてきており、公益認定等委員会の答申状況、審査期間が目に見えて短くなってきた傾向にあります。申請から、2カ月後に答申が出たという報告も聞かれます。

問題点の少ない申請については相当審査も迅速化されている様子です。審査受付後遅くとも1カ月以内に担当常勤委員に情報を上げ、委員の指示と了解のもとに審査を進めていくというルールも定着しており、今後とも平均審査日数の

短縮化が進むものと思われれます。9月、10月中にヒアリング、書類の審査状況を見ながら、最終的な修正書類を確認していただくための臨時総会も準備してまいります。いずれにしても、次の総会で最終提出資料を確認して、再度、内閣府への申請となります。今年の12月中までには、認可取得移行手続きが完了出来ていればと願っております。

(専務理事 茅野俊幸)

「代議員会」と「総会」について

例年12月に代議員会を開催しておりますが、今年度は公益法人移行への申請の関係で、代議員会を社員総会に替えさせていただく可能性があります。

社員総会を開催する場合、会員の皆さまには別途お知らせをお送りします。

◎経理・総務課 市川斉、河口尚子

「SVAの日のつどい」

今年も12月に「SVAの日のつどい」を開催いたします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

※1981年12月10日にSVA設立総会を開催したことにちなんで、12月10日を「SVAの日」といたしました。

◎経理・総務課 市川斉、河口尚子

パキスタン洪水の被災者支援を開始します

7月28日からの豪雨で洪水が発生。パキスタンでは国土の5分の1が水浸し、人口約1億8000万人の約1割にあたる1720万人以上が被災しています(8月29日パキスタン政府発表)。また、電力、上下水道、病院や学校なども破壊され、市民生活に大きな被害が出ています。

SVAでは9月7日の臨時理事会でこの災害に対する緊急救援活動を行うことを決定しました。日本人職員を派遣し、パキスタンのNGOをパートナーとして、緊急支援物資と仮設住居の建設資材の配布を行う予定です。

緊急救援担当◎白鳥孝太、薄木浩一郎

人事のお知らせ

〈契約の変更〉

古賀東彦 国内事業課「CBS/リサイクルブックエイド/会員」担当パートスタッフから嘱託スタッフへ (9月6日付)

〈退職〉

亀井千寿 国内事業課「広報担当」 (6月10日付)

お詫びと訂正 「シャンティ」夏号P.12「夏ボラ1」コーナーでご紹介しました大沼優希さんの年齢が間違っていました。正しくは14歳です。大沼さんとみなさまにお詫びして訂正いたします。

スタッフのひとこと 「好きな絵本は」

■「大きな木」愛するということ、与えるということの意味について教えてくれる素敵な一冊です。実は、連れ合いとの馴れ初めは、この絵本との出会いそのものなんです。子どもたちはまだこの物語を知りません。もう少し大きくなったら贈ってあげるつもりです。想い出したところで久々に読み返してみようかな。一人でですけれど。(事務局 長 関尚士 せき・ひさし)

■……ということ、『しょうぼうじどうしゃじぶた』を図書館から借りてくる。好きな絵本はほかにもあった、もう一度図書館へ(暇だ)。「いやいやえん」。でも、借りて帰ってきたら、「きかんしゃやえもん」だった気がしてきた。名前も似てるし(似てないか)。50年近く前の絵本が、今も活躍してるんだなあ。(国内事業課 古賀東彦、こがはるひ)

■絵本を届ける運動で扱っている絵本では、「どうぞのいす」や「からすのパンやさん」が好きです。小さい頃は、かごとしさんの本やノンタンシリーズを読んでいました。今の楽しみは、昔好きだった絵本を2歳の姪っ子と一緒に読むこと。最近では、彼女もノンタンにはまっています。(国内事業課 大林由季 おおばやし・ゆき)

■編集後記 ■タイのバンビナイにあったラオス難民キャンプから始まった「クラフト・エイド」。たくさんの方の熱意に支えられて続いてきたことを実感しました。私が好きな絵本は、「やっばりおおかみ」。孤独でも自分らしく生きるしかないよ、というビターな大人の絵本です。(清野陽子 せいのみよこ)

社団法人 シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220

WEB <http://www.sva.or.jp>
E-Mail info@sva.or.jp
郵便振替 00150-9-61724

●当会へのご寄付は、所得税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

「シャンティ」は、FSC 森林認証紙 (SGS-COC-001773) にノンVOCインキ (石油系溶剤 0%) で印刷しています。